

麥むぎこを、鍋なべに入れて、砂糖さとうをとかしたるを入れて、鹽しほを加くはへて炭火すみびにかけて木杓きやくし子こにてねりて、十分じふぶん間の内うちねりて、

白角寒天しろがくかんてんを水みづにて洗あらひて、別べつの器うつはに水みづを入れ其その中にひたしおきて、やわらかになるを取出とぎだして、しぼりて、こまかにきざみて、鍋なべに入れ、水二合みづにふたごうを加くはへてよく煮にとりして、箸はしにてかけて見ても少しもかたまりかゝらぬ様ようにならば、

馬尾飾けずりひのりにて、前まへのねりたるなべの中なかへとこしこみて、再び十分間じふぶんかんほどねりて、うすき箱はこに流ながし入れて、ひやかして、かためて、四方しほうを串くしにてすかして、四方しほうのよこをうちてうかして、ふせてとんとんたゝきて取出とぎだして切方きりかたして皿さらにつくるなり、

▲富有の乞食 羅馬の都にて教會にて買ひ歩きたる一人の乞食此程死去したるに驚くべし其遺産金參拾七万圓に達し、遺言書には三人の子供に此金を分つべしと記しありたりと更に可笑しきは此三人の子供は父が斯程の金持なりとは知らざりしといふ

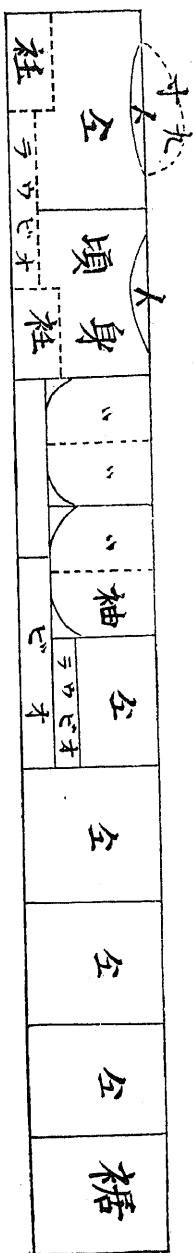
小兒改良服

東京府第一高女教諭 岡本ちか子

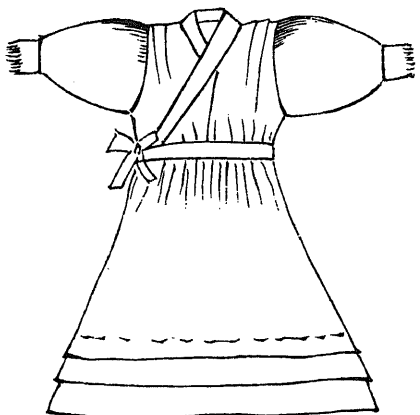
子供こどもの着物きものに附紐つなひをなし之これを固かたく結むすぶは、衛生上せいせいじやうよろしからぬ事ことにて私わたくしが申上まうしあぐるほどでも御座ございませんが、又腰揚またこしあみの澤山たくさんあるのも着きにくくて、且かつつ夏向なつむきなどは、暑あつさも多おほく感かんずるかと思おもひます、時下じか丁度暑ちやうどあつさに向むかつて居ゐりますから、左ひだりに簡單かんたんなる改良服かいりやうふくを御紹介ごしょうかい致します。

四五才女兒改良服

用巾ようきん 並幅なみはち一丈一尺九寸いちぢやうしちやくしゆじゆ



出来上り図



- 裁切寸法
- 裾丈 一尺四寸
- 裾幅 六寸二分五厘
- 帯丈 二尺
- 帯幅 二寸五分
- 袖丈 一尺九寸
- 袖幅 一尺八寸
- 身丈 一尺八寸
- 身幅 一尺八寸
- 肩幅 一尺八寸
- 帯幅 二寸八分

縫ひ方

袖、袖下を縫ひ、袖口の處は縫ひしめて、シャツの様に「カフス」をつけるか、或は襷を取りましてリボンをつけてもよろしう御座います。身頃、四つ身着物とかなじ様に、脊、脇、衽、衿などを縫ひますが、身丈が短う御座いますから衽下りは二寸五分位に致し、袖附は袖山の所に「ギャダ」を寄せて縫ひます。

次に肩揚をなし、帯附の處は其小兒の胴廻りより少しく弛め加減に縫ひしめ置き、之を表裏の帯にて挟みて返針に縫ひます

次に下布を縫ひ合せ（此時前となる所四五寸明け置き其處に見返をつけます）裾を八分位の幅に三つ折縮にしなほ三寸位上りし所に二三段「タツク」を致します、（これは揚にもなり又飾に

もなりません）帯附の處は帯の丈に縫ひしめて帯の表のみ附け裏は縮附けるのであります。

次に上前の帯先の裏側に「ホック」を二ヶ所附け下前の帯の表に門留を致しまして、前の「ホック」をかけますなほ上前の脇の内側と下前の帯先とに細き紐を附けます、又飾として前の合せ目に「リボン」を附ますと可愛らしく見えます。

- ▲昆虫類 は世界中に大抵二十四万種ありといふ其内の或るものは頗る小きものにて四千匹を集めて漸く小き砂粒位の大きくなるものありといふ
- ▲人命の必要品 はいふ迄もなく空気がなければ五分間空気がなければ死し、全く眠らぬ時は十日にて死し又水を飲まぬ事一週間にて死し、食物に至りては境遇次第にて人命を保つ度合は異れりといふ
- ▲印度の寡婦 印度には幼女の結婚するもの頗る多く一度夫を失ふ時は再び他に嫁する事出来ざるなりと今全國政府の最近の調査によれば一才より三才迄の幼女にて寡婦となるもの大凡一万九千人ありとぞ全體にては二千五百万人の寡婦印度にある割合なりと云ふ